

## モンタナ州立大学ビリングス校の留学を終えて

総合管理学部総合管理学科 4年 洲崎絢斗

私は2017年の9月から2018年の5月の頭まで交換留学生としてモンタナ州立大学ビリングス校にて留学をさせていただいていました。元々、アメリカで留学をしたいと中学校の頃から考えており、実際に留学ができるようになった時、心の底から喜んだのを今でも覚えています。英語を勉強するきっかけとなったのは小さい頃からやっていた公文式のおかげです。小学校6年生の頃に英語を学び始め、中学校・高校と何人ものALTの先生方と話をしていく中で英語を話すことの楽しさを知っていき、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちが芽生えてきました。高校生で初めて修学旅行で台湾に行った時、自分が思っているよりも英語を話すことができず、悔しい思いをしました。そこからまだまだ勉強が足りないということに気付かされて、勉強に一層力を入れました。そしてその1年後にオーストラリアにホームステイをしに行った際は台湾での反省を十分に活かし、たくさん現地の方々と話すことができました。自分自身、成長を感じたと共にまだまだ話すレベルは高くなかったのもっと追求してやっていく必要があるとも感じていました。

大学に入ってから1年生の頃から大学が市・県などの国際イベントに積極的に参加するなど日頃から英語を使った活動を行うよう努めてきました。そしてこの交換留学生プログラムには2年生の頃から応募しており、結果として2回目の応募で派遣されることが決まりました。その間、留学に必須であるTOEFLテストの勉強に特に時間を割いて勉強に励んでいました。合計3度テストを受けましたが、最初と2回目のテストの点数が一緒だったと知った時は自分の努力の仕方は間違っていたということに気付きました。具体的に言うと、語彙の選択式の問題の正答率が極端に低く、勉強の段階でやり直しをする際、正解である選択肢のみの意味を覚えていたという問題がありました。他の選択肢については補うことができていなかったため、頭に入る新しい情報が覚えるべき量と比べ、かなり少なかったと思っています。2回目のテスト結果を受け、そのことに気付いてからは全ての選択肢の語彙の意味にも目を通すようにし、結果的にその語彙の部分の点数を上げることにつながりました。今思えば、やり直しをする際、全ての選択肢に目を通すというのは自分にとって当たり前ではありますが、あの当時の私はとても盲目だったと深く反省しています。



←留学生のみんなと森を散策した時の1コマ

留学生活が始まってからは、特に最初の方は自分の英語のアクセントの位置・発音で苦戦することが多かったです。それでもやはり正しい発音、アクセントで英語を話したいという気持ちがありましたので、どうやって発音したらいいかを現地の友達に聞いてその練習に付き合ってもらいました。最初はきつかったですが、自分の英語が伝わらない時、悔しい気持ちがかかなりありましたし、今改善しないでいつ変えることができるだろうかと考え、必死に練習をしていました。

1 学期目は **Language, Culture, Identity, Public Speaking, Literature** と体育の授業を受けていました。どの授業にも共通して言えることは生徒参加型のディスカッション形式の授業であったということです。私が留学をしようと考えていた理由の1つとしてアメリカの授業でいっぱい発言をして学べるものを多く学び、自分のものとしたいということが挙げられます。小学生の頃から授業中に発表することが好きであった私は授業中に発言することに何ら恐れを抱きません。アメリカに行って授業を実際に受けてからも積極的に発言するよう心掛けていました。その方が楽しいし、多くのものを学べる気がします。**Language, Culture, Identity** の授業は主に留学生が多く受けている授業の1つで、主に自分の出身国の言語の分類について、文化的要因、それがどうそれぞれの自己同一性と関係しているかについて学びました。授業では毎週1つのテーマについて宿題出されそのことについて授業中発表、そして質疑応答という形で進められます。授業が進んでいく中で気付かされたことは日本について意外と知らないことがあるということです。そこまで多くはありませんでしたが、それでも多少は知らないことがあり、宿題について調べ物をしているときにもっと日本について知っておくべきだなと考えさせられました。よく海外に行くことは自国についてもっと知る良い機会と言われていますが、まさにその通りだと実感しました。この授業を通して、日本の文化について興味が更に湧いてきており、度々日本の文化についてのウェブサイトを訪れては自分の知識の少なさにこれでは駄目だなと考えながらいろいろ学んでいます。**Public Speaking** はアメリカの大学の授業では主流といっても良いほど、多くの学生が受けています。留学をしてこの授業を取りたいと考えていたので、授業に出ることはいつも私の楽しみでした。この授業ではスピーチを数回行いました。アメリカの現地の学生が多く受講しており、優秀な人のスピーチを実際に目にするという経験は良いテクニックを真似る絶好の機会でした。私はこの授業を通して、人前で恐れずにスピーチをすることのできる自信と経験を得ました。この授業は2学期目に受講した **Advanced Public Speaking** に大いに役立ちました。**Literature** は正直、かなり苦戦しました。短編小説やシェークスピアについて学び、ストーリー自体は楽しかったのですが、テストが難しかったことを今でも鮮明に覚えています。テストで思うような点数は取れませんでした。テストに向けて一生懸命勉強したことは意味のあることであったと捉えています。この授業を受けた後、文学が好きになり、本を購入し今でもたまに文学作品を読んでいます。

2 学期目に入ると、かねてから受講したかった **Native American Studies** の授業を受けていました。また、**American Government, Advanced Public Speaking, Reading, Writing** なども一緒に学びました。**Native American Studies** は学ぶ内容が多かったですが、受けるのを楽しみにしていた授業だったので、授業の予習復習に頑張れたと思います。モンタナは **Native American** の方が多く住んでおり、ある **Native American** の友達にとある話を聞きました。その人の祖父は船長をしており、ある日、海にいつものように出かけていると、溺れている人を見つけたというのです。そして、当時、アメリカと日本は戦争をしていたが、**Native American** とその溺れている人が同じ目をしているという理由からその人を助けたそうです。この話を聞いて彼の祖父はなんて良い

人なんだと思うのと同時に私もそうでありたいと考えました。そういったこともあり、より一層 **Native American** について学びたいという気持ちが強まっていき、それが勉強を続けていくモチベーションとなりました。**Advanced Public Speaking** では、前学期に基礎編を受講していたこともあり、内容が非常に簡単に入ってきました。本をこの授業では使用したのですが、どうやったら考えを強固なものにできるだろうかという内容でした。**SUCCESS** といって **Simple, Unexpected, Credible, Concrete, Story** の頭文字を取って成功するための 5 つのテクニックを学びました。それぞれのテクニックをどのように授業で、将来の仕事で活かせるかというところまで落とし込んで考えるというとてもためになる授業でした。スピーチをすることはもちろんのこと、実際に就職活動の面接の練習として実際にそのデモンストレーションを行いました。その際、私は **Story** を盛り込むということに注意をして仮の面接を受けました。これはとても上手くいきました。自分が何故ある会社を志望するのか自分の実体験から私は働くのに最適な人物ですと自分を売るといったテクニックは実際に就職活動にて使っており、とても有効だと感じています。個人的には大学で 1 番良い授業ではないかと考えています。**Reading, Writing** の授業では宿題をする際、**Academic Support Center** といって学生の勉強をサポートしてくれる施設に大変お世話になりました。予約をオンラインで行えば、チューターの人と一緒に勉強することができ、特に書いた論文の添削をお願いして、言葉の選び方や文法面を確認してもらいました。私は寮に住んでいたのですが、どの階にも勉強をすることができる部屋が用意されており、よく利用していました。勉強をするのにはとても絶好な場所でした。

留学を通して英語力向上はもちろんのこと、将来についても見つめなおす良い機会となりました。留学をする上でお世話になった熊本県立大学の教職員の皆さん、受け入れ先のモンタナ州立大学ビリングス校の教職員の方々、金銭面でかなり支援してくださった独立行政法人日本学生支援機構、そして家族に対して最後ではありますが、深く感謝申し上げます。今後、留学の経験を活かし、立派な社会人として日本、世界で活躍できるよう精一杯頑張っていこうと考えています。最後まで読んでいただき、誠にありがとうございました。



↑特に仲の良かった仲間との 1 コマ



↑週 3 回のペースで行っていたフットサル